

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第164版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵

安心で楽しい学びの場

1月31日、今年度最後の冬季ソフトセミナーの前編を開催しました。実は今回のセミナーを迎えるにあたって挑戦したことがありました。それは、参加者が提出する「実践レポート」の提出率を「安心感や楽しい場づくり」から高めていくということです。今までは、提出いただいた全てのレポートはカグヤが取りまとめて皆様に返送します。そして、参加者の皆さんが詳しく聞きたいと思う実践レポートに対して投票し、当選した方には後編のセミナーで発表いただくという流れでした。提出は強制ではありませんので今までの提出率は概ね50%ほどでした。

1つ目は当選しても「辞退できる」ようにしたこと。発表する、しないを参加者が選べる安心した場づくりを目指しました。2点目は当選して発表をされる方には、「選択肢の中から好みのスイーツを一つ選んでいただく」ようにしたこと。これらの変更によって、提出率は80%まで上がりました。嬉しい限りですが、どちらの変更点も効果的だったのかについては、また後編のセミナーでお聞きしてみたいと思います！



どんな場づくりが心の振動数を上げられるのか研究中です！

(真田海)

お問い合わせの声

毎年1月〜3月は「ミマモリングソフト」のお問い合わせが増える時期です。以前から、子どもたち一人ひとりの発達を理解するためにミマモリングを導入したい！とお声が最も多く、今も変わらないうのですが、近頃、ご相談頂く内容に変化が見られます。

保育書類、なんとかならないの？



ご相談内容はさまざま、お気軽にお問い合わせください！

例えば「別の会社のソフトを使ってみたが、園が目指す保育の考え方と一致していません。以前にも説明を聞かせてもらったが、もう一度、ミマモリングの考え方や内容を聞きたい。」というお声や「養成校で最新のことを学んでいる学生が保育実習に来る度に、うちの園の保育が時代にそぐわなくなってきた。これを感ずていた。園の私たちが学んでいかないといいないし、変わっていかないといいけない。保育環境を見直し発達を理解していく意味で、ミマモリングを活用したい。」など、業務省力だけではなく、園の困りごとの解決や、園が目指す保育に役立つツ

ルをお探し中だと、ご相談を頂いております。子どもたち一人ひとりが違うのと同じく、保育ソフトの特徴も各社、多種多様です。ミマモリングは、発達分野に特化しているため、この分野においてお役立て頂けるのではと考えております。上記記事のソフトセミナーの園同士の異年齢の学び合いのように、ミマモリングの活用の幅も広がってきております。活用に関するお困りごとがありましたら、お気軽にお問い合わせください。また、ミマモリングの内容をお聞きになりたい方には、ズームで実施しております。(奥山卓矢)

便利さと、温かさ

今年度のギビングツリー主催、保育環境セミナーの全日程が終了した昨年末に、1年の働きを振り返る機会を設けました。

こちらの新聞でも何度かご紹介している通り、オンラインとオフライン両方の参加方法を用意するという初めての試みだったため、オフラインだけの開催時とは準備の仕方も大きく変わりました。そのため事前打ち合わせやリハールも今まで以上に綿密に重ね、おかげさまで大きなトラブルもなく無事に終えることができましたが、社内での振り返りでは、「オンライン配信に重きを置いていた数年間

だったため、来年度は以前のようなおもてなしの場を再開したい」という声があがりました。一例として、
・地方からいらっしやる参加者用に「東京プチガイド」のような冊子を用意し、ランチができるお店や観光スポットをご案内する
・久しぶりにお会いする先生同士や、先生方と私たちも近況報告や相談ができる時間をセミナー後のプログラムとして設ける
・以前までこちらで用意していた参加者用名札をそれぞれが手書きで作成できるブースを設ける
といった案が出ました。



参加者への「ほっと一息セット」もおもてなしの一つです。

オンラインの便利さと、オフラインならではの温かさ、どちらにも良い所があります。その良さを最大限に活かして、参加者の皆さんに「また参加したい」と思ってもらえるような場を用意してお迎えしたいと思っています。この気付きを来年度のセミナーに活かし、その時々に合わせてアップデートし続けていきたいと思っております。(真田由莉)

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

そのものの味



あまり付け加えずにシンプルであればあるほどにそのものの持ち味が見えやすくなるのかもしれない。

福岡の「暮らしフルネス農園」で毎年つくっている「堀池高菜」。今年も無事に収穫することができました。関東出身の私としてはあまり馴染みがない高菜でしたが、こちら福岡では昔は高菜漬けが食卓に欠かせなかったり、今でも豚骨ラーメンのトッピングの定番だったり、ソウルフードと言っても過言ではない存在。高菜は漬物が一般的でピリリと

した辛みや後から広がる苦みがあるイメージでしたが、先日、高菜だしのスープをいただく、驚くほどの旨味と味わい深さに感動！ その土地の井戸水を入れた鉄鍋に、その日収穫した根っこごとの高菜とちよつとの塩を加え炭火でじっくり煮込んでいくと、高菜そのものの味、本来のおいしさが、しつかりと引き出されていきました。こんなにも旨味や甘味があることを初めて知り、そのものの味を知ることが、そのものの魅力を知ることと同じだと感じました。そして人も同様に、もともと持っているその人らしさや子ども心を大事に見守っていくこと、その持ち味を引き出そうとする眼差しや関わり、環境づくりを大切にしていくことの豊かさを、今回高菜の持ち味を通して教えてもらった気がしています。（宮前奈々子）

日本の智と慧

朱鷺色の春

朱鷺（学名ニッポニアニッポン）が空を舞う時に見せる翼の内側の何とも言えない品格のあるピンク色、それが「朱鷺色」です。この色に憧れたある染織家は試行錯誤の末、雪折れした「桜の枝」から見事な朱鷺色の抽出に成功し反物に織り上げました。桜の木は、冬の間からその幹と枝の全身を赤くしながらじつと時を待ちます。そして、春を確信して「淡いピンクの花」を日本中に咲かせます。私たちが桜を好む理由のひとつは、この「優しい桜色」にあるのかもしれない。この上品な色は、



この美しい桜色の花を咲かせるために、厳しい季節を過ごしてくれたのでしょうか。

私たちに日本人のもつさまざまな美德を思い出させてくれるようです。春は希望と不安が入り混じる季節です。残念な結果を乗り越えて再出発する人もあるでしょう。毎年日本人はいるんな意味でこの花に励まされてきました。さて今年はこの桜色に何を感じるでしょうか。本コーナーは今回が最終回となりました。お付き合いいただき本当にありがとうございます。佳き春となりますように。（藤堂昌恒）

子どもの今をよくする

一期一会庵

懐かしい未来という言葉がありません。この「懐かしい」というものは、「むかしから今も続いている」ことを指します。そして未来とは今のことです。つまり「今の連続こそが未来」そのものになります。連続しているなかに懐かしさも未来もありますから、今とむかしはつながっているということになります。過去のことを思い出すのではなく、今もむかしそのものであると感じることが今とむかしを結びます。伝統や伝承、行事や神事というものは過去のものでありません。これは今も続いているものであり、今もむかしと同じことを続けているということなのです。

人間の寿命は長くても百年くらいです。時間軸でいえば数百年前や千年前のことは覚えてはいないということになると思います。しかし、そのころと同じ心で同じように場を設け、みんなと一緒に味わっていたであろうことは続けていると思いつけるものがあります。それは今の心から思いつくものです。過去への推測ではなく、今感じているものに集中し、歴史やその当時の人々の心に共感し想像することです。実感できるように思います。私たちが過ぎ去ったものを歴史と呼びますが、真の歴史は今の中にこそあり、生き続けています。この歴史観の大きな勘違いと現代の常識によって今というものの意味が次第にわからなくなっています。一人ひとりが今を生き切り、今にいてということの大切さを学ぶことは「知恵をつなぐ」ことです。まさに今は、子どもたちには知識よりも知恵が必要な時代だと思っています。保育はその可能性に満ちています。懐かしい未来は、子どもの今をよくすることで繋がります。子どもたちに懐かしい未来のままにのちの喜びや仕合せの初心を伝承できるようにこれからもカグヤは徳の暮らしをととのえ、精進していきます。（野見山広明）



編集後記



今年度も大変お世話になりました。ありがとうございます！

春は出会いと別れの季節。私たちもこの春は上記『日本の智と慧』でもお馴染みの仲間との別れを控え、寂しい気持ちもあるのですが、出会うから12年もの間に頂いた応援や受けた薫陶、そして一緒に築いてきたカグヤ風土はしっかりと残っていますから、恩送りとして

も、引き続き子どもたちの明るい未来に繋がる働きを追求していきたいと思っています。皆様も喜びや悲しみ、期待や寂しさなど色々な気持ちを胸に抱かれつつ新しい季節を迎えられる方もいることと思います。どうぞ健やかに素敵な春となりますように。（宮前）

カグヤは「子ども第一義」の理念を实践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台) 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17 東京堂神保町第3ビルディング8階 tel.050-1744-8823 fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17 東京堂神保町第3ビルディング8階 tel.03-3518-6217 fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致 暮らしフルネスについて

